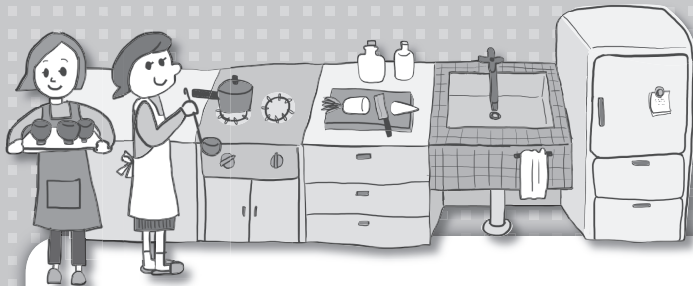


助産師の台所から①



「お勝手」というところ

しぶや助産院 院長 澁谷貴子

助産院の台所は、家庭の台所と同じではあるが、実に多くの女性がその場所に立つ。院長の私ももちろん、スタッフや実習中の学生、時には来院したママたちも茶碗を洗ってくれる。

私の母方の祖母は大正生まれであったが、「台所」とは決して言わなかった。「お勝手」と呼んでいた。不思議に思い祖母に尋ねると、『『台所』はその家の主婦が勝手に使える自由な場所なんだから、『お勝手』なのよ』とにこやかに教えてくれた。

家族が多かった祖母たちの時代は、嫁に来て一家の食事を任されるということは、とても重要なことであり、嫁としてはその家で生きていく地位を築いたようなことであったのだろう。

現代は核家族化が進み、新婚の夫婦のキッチンはカラフルなグッズに囲まれて、夫がいとも簡単に料理をして茶碗を洗う。私の夫は、共働きであっても新婚当初から絶対に台所に立たなかった。「男子厨房に入らず」を頑なに守っていたようだ。意地悪な人だと思ったこともあったが、おかげで私の主婦力はあっという間にアップした。

「台所」から「お勝手」と呼べるようになるまで、祖母はいったいどのくらい姑に仕え、愚痴を言わず苦勞を重ねたのだろうか…。

私の父方の祖母は、明治の生まれであった。母が嫁に来たその日から、母に台所を明け渡したという。母にすべてを任せ、未熟な手料理を喜んで食べてくれたそう。母は家族になった喜びと共に、大きな責任を感じたという。

平成生まれの子どもたちも親になっている。時代は大きく変わってきた。「今日の夕食はマックよ!!」「ラッキー!!」……ある夫婦の会話である。

助産院には連日、お乳のトラブルのママがたくさん来院する。食生活の悪さもその原因の一つだ。「何を食べたらよいか分からない」「何を作ればよいか分からない」と母親たちは口々に訴える。私は一人ずつ丁寧に、体調に合った料理のメニューから作り方まで教えている。

学校では食育教育が盛んになされているが、「食育教育」の充実の前に「お勝手」と呼べるところ

を見直す必要がある。

祖母の料理も母の料理も、昔から日本のどこの家庭にもある献立だったが、心に染みるほどにおいしいものであったと思う。妻として、母として、女として凛として生き、深い愛情を伝えてくれた、そんな味だったと感謝するのである。

(しぶや・たかこ) 長崎大学医学部附属看護助産学校助産婦科卒業後、助産師として臨床に従事。産業医科大学病院に16年間勤務。分娩部・NICU勤務経験後、2003年12月福岡県遠賀郡岡垣町にしぶや助産院(有床2床)を開院。「心豊かなお産と子育て」を大切に、自然な分娩に寄り添う。2009年8月新開設し6床に増床。2002年おんぶりだっこの会を発足。『いいお産の日イベント・親子に贈るおはなしコンサート』を企画し、10年にわたりお産と子育てをテーマに講演している。寄稿図書に『ちょっとだけさよなら』(星雲社)、『being with you あなたとともに』(グリーンケア研修会報告書)がある。2009年11月福岡県母子保健大会で家族計画協会会長賞の表彰を受ける。岡垣町在住、3児の母。

福岡県遠賀郡岡垣町旭台3-11-5
TEL: 093-282-3476 <http://www.shibuya1103.jp/purohu>